

2022年度全国大学病院輸血技師研究会

2022 年 10月 27日（木） 15：00～17：00

新宿住友ホール+ Web 開催

当番校

東京大学医科学研究所附属病院

目次

1. WEBでの技師研究会への参加方法	4
2. 2022年度全国大学病院輸血技師研究会《次第》	6
3. 2021年度全国大学病院輸血技師研究会議事録	7
4. 全国大学病院輸血技師研究会 規約改定[案]	9
5. 全国大学病院輸血技師研究会 令和3年度会計報告	12
6. 全国大学病院輸血技師研究会 調査報告	13
① 輸血業務量アンケート集計報告	
藤田医科大学病院 輸血部	松浦 秀哲
② 大学病院における輸血管理料の取得状況についての調査	
東海大学医学部附属病院 臨床検査技術科 輸血室	杉本 達哉
③ 輸血前の患者認証に関する実態調査の結果報告	
浜松医科大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部	山田千亜希
7. 全国大学病院輸血部会議技師研究会特別講演	16
「分子標的治療薬の投与情報の収集の工夫について」	
近畿大学病院 輸血・細胞治療センター	井手 大輔
8. 全国大学病院輸血技師研究会施設紹介	17
「輸血部門技師の移植・細胞治療関連業務紹介」	
兵庫医科大学病院 輸血・細胞治療センター	池本 純子
9. 全国大学病院輸血技師研究会役員名簿	18
10. 全国大学病院輸血技師研究会ブロック別施設一覧	20
11. 2022年度全国大学病院輸血技師研究会出席者名簿	21
12. 平成13年度（2001年度）以降の当番校リスト	23

WEB での技師研究会への参加方法

1. 技師研究会は、現地開催を予定していますが、併せて、Zoom ウェビナーを用いたライブ配信をいたします。現地にお越しただけない方には Zoom ウェビナーを用いてライブ配信いたします。後述する「視聴者」と「発表者・発言者（Zoom のパネリスト）」の 2 タイプの参加方法に分かれます。あらかじめ施設内で決定した事務局に登録した 1 名の投票者は、必ず「発表者・発言者」として参加してください。
2. ☆各会議・各タイプの Zoom 参加 URL は、本会議の 1 週間前にメールにて送付いたします。
URL が届かない場合は、事務局へご連絡ください：jstmct29@med-gakkai.org
○ 技師研究会 当日のみ有効緊急連絡先：080-4159-6891 輸血部会議事務局 尾上和夫
3. 技師研究会前に、必ずミーティング用 Zoom クライアント最新版をインストールしてください。
(ア) Zoom 最新版であるか確認する方法 <https://ncdc.co.jp/columns/6612/>
(イ) 最新版ダウンロードはこちらから <https://zoom.us/download>
※ 最新版でない場合、通信トラブルなどにより一部視聴困難になる場合があります。
※ Zoom の URL を、他の方に転送したり複数の PC やスマートフォン等からアクセスしたりすることのないようお願いします。
4. 会議への入室時間は本会議、技師研究会それぞれ開始時間の 20 分前からです。
新宿住友ホール（住友ビル B2） 技師研究会開始時間：10 月 27 日 15 時 00 分

視聴者として参加する場合

5. 「視聴者」はマイクとビデオが使用できません。会議を視聴すること、および「チャット」機能を用いて、文字による質問投稿ができます。視聴者は投票権を有しません。あらかじめ事務局に登録され投票を行う方は、次章の「発表者・発言者」の項目へお進みください。
6. 入室方法
(ア) 事務局から事前に送付される 2. ☆の Zoom ウェビナー URL（前述）にアクセスしてください。
(イ) ブラウザの上部に開くウィンドウ内の「Zoom Meeting を開く」ボタンを押すと、Zoom アプリが起動します。
(ウ) 参加登録時と同じ電子メールアドレスと名前（名前：施設名）を入力し「Web セミナーに参加」をクリックします。「視聴者」の場合、これらの情報は参加後には修正できません。
もし、修正が必要な場合は一旦退出し、再入室をお願いします。

発表者・発言者（Zoom 上のパネリスト）として参加する場合

7. 発表者・発言者・投票者（施設代表者）

- (ア) 「発表者・発言者＝パネリスト」はマイクとビデオが使用できます。会議を視聴すること、および「チャット」と「Q&A」で文字による質問投稿ができます。
- (イ) **1施設に1票の投票者を含みます。**あらかじめ施設内で投票者1名を決定しておいてください。投票の際には、投票者のみが投票を行ってください。

8. 入室方法

- (ア) 事務局から事前に送付される 2. ☆の Zoom ウェビナー URL にアクセスしてください。Zoom ウェビナーのパネリスト参加の個別招待 URL であることにご留意ください。
※視聴者用 URL から参加されないようご注意ください。
- (イ) アクセス後は、画面に表示される指示に従い必要項目を入力・登録してください。
必要項目：名前、施設名・職種、参加登録メールアドレス
既に Zoom をご使用の場合はスキップされることがあります。
- (ウ) ブラウザの上部に開くウィンドウ内の「Zoom Meeting を開く」ボタンを押すと、Zoom アプリが起動します。
- (エ) ご自身のサムネイルの上にマウスを移動すると、ご自身の参加名が表示されるので、確認します。正しく入力できていない場合は、サムネイルの右肩にある「…」をクリックし、「名前を変更」を選択して正しい「名前・施設名」へ修正してください。
- (オ) ビデオは常時 ON（顔出し）でお願いします。

9. 参加環境

- (ア) 生活雑音のない静かな環境でご参加ください。
- (イ) LAN ケーブル接続を推奨します。Wi-Fi 接続は十分な強度を確認してください。
- (ウ) 一つの部屋で複数の PC から参加する場合、近くの他の参加者の PC のスピーカー音をマイクが拾うとハウリングが起きます。他の参加者にはイヤホンまたはヘッドセットを使用し音が漏れないようにしてもらってください。
- (エ) 指示を受けたとき以外は、音声のミュートを解除しないでください。音声は視聴者全員にながれ、会の運営の妨げとなります。
- (オ) 稀なケースとは思いますが、ストリーミングサイト等から動画を受信しながら再配信すると、PC とネットワークの両負担となり、円滑な配信が困難になることがあります。LAN ケーブル接続した PC 内においた動画ファイルを再生し配信してください。また、非力な PC は避け高性能 PC を用いてください。

10. 発表・発言の場合

- (ア) 「手を挙げる」のマークをクリックし議長の指示を待ってミュートを解除し、施設名と名前を名乗ってから発言してください。Zoom の挙手は、リアクションボタンの中の「手を挙げる」のマークをクリックして行います。あるいは「チャット」に意見をご記入ください。
- (イ) 発表・発言時はミュートを解除し、資料あるいはスライドを提示する際は、Zoom の画面共有機能を用いてください。発表・発言後は必ずミュートにしてください。

2022 年度全国大学病院輸血技師研究会 《次第》

日時：2022 年 10 月 27 日（木）15：00～17：00 @新宿住友ホール + Zoom会議

- 開会の挨拶** (15：00～15：05)
- 1) 技師研究会代表挨拶 東京医科歯科大学 大友 直樹
 - 2) 当番校技師代表挨拶 東京大学医科学研究所 尾上 和夫
- 1. 協議事項** (15：05～15：30)
- 1) 2021年度議事録について
 - 2) 規約改定について
 - 3) 副代表の選任について
 - 4) 会計報告及び会計の取り扱いについて
- 2. 報告事項** (15：30～16：20)
- 1) 業務量アンケート調査 藤田医科大学 松浦 秀哲
15:30～15:45
 - 2) 「大学病院における輸血管料の取得状況」アンケート調査 東海大学 杉本 達哉
15:45～16:00
 - 3) 多施設共同研究報告：輸血前の患者照合に関する実態調査 浜松医科大学 山田 千亜希
16:00～16:15
- 3. 特別講演** (16：15～16：40)
- 「分子標的治療薬の投与情報の収集の工夫について」 近畿大学 井手 大輔
- 4. 施設紹介** (16：40～16：55)
- 輸血部門技師の移植・細胞治療関連業務紹介 兵庫医科大学 池本 純子
- 5. その他周知事項** (16：55～17：00)
- 技師研究会アーカイブについて

次期当番校の挨拶 佐賀大学医学部附属病院 山田麻里江

2021 年度全国大学病院輸血部会議 技師研究会 議事録

日時：2021 年 10 月 7 日（木）15：00～17：00 @アクトシティ浜松+Zoom 会議

作成：2021 年度当番校 加藤千秋（名古屋大学）

出席：100 大学 欠席：3 大学（詳細は別紙）

記

1. 開会の挨拶

1) 技師研究会代表挨拶

技師研究会代表 東京医科歯科大学 大友氏より開会の挨拶があった。

2) 当番校挨拶

名古屋大学 加藤氏より挨拶があった。

恒例に従い、開催校の名古屋大学 加藤氏が議長を務めた。

2. 協議事項

1) 2020 年度技師研究会議事録について

熊本大学福吉氏より配布資料記載の議事録要旨の概略が説明され、2020 年度技師研究会議事録として承認を得た。また、従来議事録作成は庶務担当役員が作成してきたが、本年度より当番校が作成することについて、承認された。

2) 役員を選任について

私大担当役員として、慶応義塾大学の上村氏の後任として、慶応義塾大学の鳥海氏が選任された。中国四国ブロック代表として、徳島大学の李氏の後任として、愛媛大学の土居氏が選任された。以上2名の選任について承認された。

3) 会計報告について

会計担当役員東京大学の名倉氏より 2020 年度(令和 2 年度)の会計報告がなされた。

収入の部 158,581 円（前年度繰越金 158,581 円、利息 0 円）、支出の部 158,581 円（大学病院輸血部会議への会計統合 158,031 円、振込手数料 550 円）差額残高 0 円。技師研究会の残高は、輸血部会議の事務局へ繰り入れられたことが報告された。会計監査担当の名古屋大学 加藤氏が会計監査を行い、問題ないことを報告し承認された。

4) 事業計画について

技師研究会代表 東京医科歯科大学 大友氏より事業計画の説明があった。

事業計画として、研修会、講演会、人事交流、共同研究、精度管理調査を企画する。研修会は、大学病院医療技術者研修での輸血開催年が 7 年ごとのためその間の補足に会場手配の手間を考慮して Web 開催等も活用した計画をする。講演会は、特定分野に造詣の深い技師を講師として各ブロックの役員を中心に、まず年 1 回くらいのペースで企画する。人材交流は、見学程度の交流を他大学とおこなうところから始めたいが、大学間のマッチングや費用面の課題がある。共同研究は、現在行っている

調査報告や業務量アンケートから、卒前卒後教育、輸血関連検査や輸血細胞治療関連の技術開発、症例・事例・ガイドライン等、テーマを抽出して、輸血技師研究会員で研究を行う。精度管理調査は大規模サーベイにない項目を数施設の検査室間比較で行う。

以上の説明に対し、承認された。

5) 2021年度（令和3年度）予算案について

会計担当役員東京大学の名倉氏より2021年度（令和3年度）の予算案が説明された。

収入の部 事業費として100,000円（全国大学病院輸血部会議より）、支出の部 研修会費として45,000円、講習会費として45,000円、雑費として10,000円、合計100,000円の予算を計上し、承認された。

3. 報告事項

1) 各種アンケート調査報告

① 赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン（改訂3版）に関する調査

東海大学 杉本氏より赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン（改訂3版）

に関するアンケート調査結果が報告された。回答施設61（回答率59%）

② 輸血細胞治療部門におけるタスクシフト/タスクシェアに関する調査

東京医科歯科大学 大友氏より輸血細胞治療部門におけるタスクシフト/タスクシェアに関するアンケート調査結果が報告された。回答施設71（回答率69%）

慶応大学の上村氏から血液細胞成分採血装置の操作はもともと臨床工学技士の業務範囲ですので今回のアンケートで使用している意味でのタスクシフトとは言えませんとコメントがあった。

③ 輸血部門以外での輸血検査業務および血液製剤運用に関する調査

名古屋市立大学南里氏より輸血部門以外での輸血検査業務および血液製剤運用に関するアンケート調査結果が報告された。回答施設70（回答率68%）

④ 細胞凍結保存業務に関する調査

京都大学 万木氏より細胞凍結保存業務に関するアンケート調査結果が報告された。回答施設53（回答率51%）

⑤ 遡及調査用検体保管に関する調査に関する調査

藤田医科大学 松浦氏より遡及調査用検体保管に関する調査に関するアンケート調査結果が報告された。回答施設75（回答率73%）

2) 業務量アンケート集計報告

藤田医科大学 松浦氏より本会議前に業務量アンケートの結果について、資料に沿って詳細な報告がされた。103施設中102施設より得た回答を集計した。（回収率99%）報告内容に修正がある場合は、申し出るように依頼がされた。また、本アンケート調査結果はパスワード付きのファイルとしてダウンロード可能とする（パスワードは、研究会会場で公表）。

4. 周知事項

技師研究会メーリングリスト運用ガイド改訂について

技師研究会代表大友氏より、輸血部会議のメーリングリストのメンバーを日本・輸血 細胞治療学会会員に限定していたが、会員限定である必要がなかったため輸血・細胞 治療学会員限定の文言を削除するとの説明があり、承認された。

5. 次期当番校の挨拶

次期当番校の挨拶 東京大学医科学研究所の尾上技師が挨拶を行った。

東京で開催予定であることの告知がされた。

以上

全国大学病院輸血技師研究会 規約(案)

平成 18(2006 年)年 10 月 3 日 制定

2020 年 10 月 22 日 改定

2022 年 10 月 27 日 改定

〈名 称〉

第 1 条 本会の名称を「全国大学病院輸血技師研究会」とする。

〈目 的〉

第 2 条 本会は全国大学病院輸血部会議(以下輸血部会議)の下部組織として、輸血及び細胞治療に関する業務を安全かつ円滑に進めるために、相互の交流を図り業務の向上に役立てると共に調査及び研究を行い、輸血医療及び細胞治療に資することを目的とする。

〈組 織〉

第 3 条 本会は、全国の国立、公立、私立の大学病院（分院及び医学部附属病院を含む、以下大学病院という）の輸血細胞治療部門に属する臨床検査技師により構成する。

〈活動内容〉

第 4 条 本会の目的を達成するため以下の活動を行う。

- (1) 大学病院輸血細胞治療部門の業務に関する調査及び研究
- (2) 血液製剤に関する調査情報収集及び研究
- (3) 細胞治療関連業務に関する調査情報収集及び研究
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な活動

〈役 員〉

第 5 条 本会に以下の役員を置く。

- (1) 代表及び副代表
 - (2) ブロック代表
 - (3) その他の必要な役員
- 2 役員は研究会総会で選任する。
 - 3 役員の任期は 1 期 2 年とし再任を妨げない。
 - 4 補欠により選任された役員の任期は、前任者の残任期とする。

〈研究会総会〉

第 6 条 本会の目的達成のため年 1 回の輸血部会議に合わせて研究会総会を開催する。役員はその年度の当番病院(輸血部会議主催病院)と密接な連絡をとりながら、研究会総会を主催する。

- 2 研究会総会は出席者の中から議長を選出し次に掲げる事項を協議する。
 - (1) 活動計画、活動報告に関する事項
 - (2) 会計収支に関する事項
 - (3) 役員を選任及び解任に関する事項
 - (4) 規約等の改廃に関する事項
 - (5) その他本会の活動に関する事項

〈ワーキンググループ等〉

第 7 条 本会の目的のために必要と認めたワーキンググループ等を別に設置することができる。
ワーキンググループ等の内規は別に定める。

〈事務局〉

第 8 条 本会の運営を円滑にするため事務局を設ける。

〈委任〉

第 9 条 この規約に定めるもののほか必要な事項は、代表が別に定める。

〈その他〉

第 10 条 この規約の改廃は、研究会総会の議を経るものとする。

付則

この規約は、平成 18 年(2006 年)10 月 3 日から施行する。

付則 (2020 年 10 月 22 日改定)

- 1 この規約は、2020 年 11 月 1 日から施行する。
- 2 役員の任期は選出された総会の翌月から始まり翌々年の総会開催月までとする。ただし施行日に役員であった者の任期は翌年の総会開催月までとする。

付則 (2022 年 10 月 27 日改定)

この改定は、改定日から適用する。

全国大学病院輸血技師研究会 規約（改定案）

新旧対照表

新	旧
<p>〈役員〉</p> <p>第5条 本会に以下の役員を置く。</p> <p>(1) 代表及び副代表</p> <p>(2) ブロック代表</p> <p>(3) その他の必要な役員</p> <p>2 役員は研究会総会で選任する。</p> <p>3 役員任期は1期2年とし再任を妨げない。</p> <p>4 補欠により選任された役員任期は、前任者の残任期とする。</p>	<p>〈役員〉</p> <p>第5条 本会に以下の役員を置く。</p> <p>(4) 代表及び副代表</p> <p>(5) ブロック代表</p> <p>(6) その他の必要な役員</p> <p>2 役員は研究会総会で選任する。</p> <p>3 役員任期は1期2年とし再任を妨げない。</p>
<p>〈委任〉</p> <p>第9条 この規約に定めるもののほか必要な事項は、代表が別に定める。</p>	<p>〈委任〉</p> <p>第9条 この規約に定めるもののほか必要な事項は、総会の議決を経て代表が別に定める。</p>

全国大学病院輸血部会議 技師研究会 令和3年度会計報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和4年10月5日

収入

項目	予算額	決算額*	備考
予算	100,000	0	
合計	100,000	0	

支出

項目	予算額	決算額*	備考
活動費	100,000	0	
合計	100,000	0	

収支決算

収入総額	支出総額	差引残高
0	0	0

※活動費用等は大学病院輸血部会議会計より直接支払いされるため、技師研究会への支払いはない。

上記の通り、適正に会計処理がなされていることを確認いたしました。

令和4年10月6日

監事

尾上和夫 

輸血業務量アンケート集計報告

藤田医科大学病院 輸血部

松浦 秀哲

別紙資料により報告致します。

「大学病院における輸血管管理料の取得状況」アンケート調査

東海大学医学部付属病院 臨床検査技術科 輸血室
杉本 達哉

輸血管管理料は、輸血療法の安全かつ適正な実施を推進する観点から、医療機関における輸血管理体制の構築および輸血の適正な実施についての評価を行うものとして設定されている。厚生労働大臣が定める施設基準に適合し地方厚生局長等に届け出た保険医療機関では、輸血を行った場合に月1回に限り、当該基準に従いそれぞれ所定点数が算定される。

血液法の基本方針において、国は医療機関における血液製剤の使用状況を定期的に調査し、適正使用の推進に必要な方策が講じられている。このため血液製剤使用実態調査が実施され、医療機関の輸血管理体制および血液製剤の使用状況などについて全医療機関としてのデータが報告されている。全医療機関データのみならず大学病院群における輸血管管理料の取得状況を把握することは、各大学病院にとって有益な情報になり得ると考え、その取得状況についてアンケート調査をさせていただくこととなった。大学病院群の輸血管管理料取得状況を各種（院内）委員会等のデータとして活用していただくことで、何かしらの有益な情報になれば幸いである。

輸血前の患者照合に関する実態調査の結果報告

浜松医科大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部
山田 千亜希

採血時や輸血時の患者誤認は、ABO 不適合輸血等の重大なアクシデントに繋がる可能性がある。患者誤認を防止するため、輸血ガイドラインや AABB マニュアルでは患者照合システムの導入が推奨されているが、システムを導入している施設においても採血時や輸血時の患者誤認が報告されている。患者照合システムの普及と活用状況を把握し、大学病院におけるより安全な輸血治療を推進する上での資料とするため、アンケート調査を実施した。

2022 年 3 月までに 26 施設より調査票が提出された。患者照合システムは、輸血検査用検体の採血前は 15 施設 (58%)、輸血実施前は 25 施設 (96%) で導入されていた。患者照合システムが導入できていない部署について、採血前では手術室 (8 施設)、救急外来 (8 施設)、内視鏡室 (7 施設)、透析室 (7 施設)、血管造影室 (7 施設)、等が報告された。輸血実施前では手術室 (3 施設)、一般外来 (3 施設)、血管造影室 (3 施設)、救急外来 (2 施設)、内視鏡室 (2 施設) 等が報告された。患者誤認に関連するインシデント及びアクシデントは 13 施設より 69 例が報告された。発生場所は、一般病棟 (28 例)、救急外来 (10 例)、集中治療室 (7 例)、手術室 (5 例)、中央診療部 (4 例) 等であった。事例の内容は、別患者から採血した (21 例)、別患者の検体バーコードを添付した (8 例)、別患者の血液製剤を輸血した (7 例)、等であった。インシデント及びアクシデントの発生時において、47 例 (68%) で患者照合システムが適正に使用されていなかった。患者照合システムが適正に使用されなかった原因は、システムの必要性を知らない (9 例)、該当部署でシステムが導入されていない (8 例)、緊急対応のためシステムによる患者確認をスキップした (4 例)、等であった。

手術室や救急外来など、緊急で採血や輸血が必要とされる部署において、患者照合システムの導入ができていない施設が報告された。患者誤認に関連するインシデントやアクシデントを防止するため、輸血部門が積極的に介入し、患者照合システムの有用性を臨床側にも理解してもらう必要がある。

特別講演

分子標的治療薬の投与情報の収集の工夫について

近畿大学病院 輸血・細胞治療センター

井手 大輔

抗 CD38 抗体に代表される分子標的治療薬は輸血検査に影響を与えることが知られている。このような薬剤を投与された患者で輸血検査を行う場合、DTT 処理の対応をとることで検査は可能であるが、投与情報を把握できていない場合、検査に時間を要し、血液製剤の出庫が遅延する可能性がある。輸血検査を行う上で患者情報の収集は必須であり、検査者が自ら情報を収集することも大切であるが、すべての症例を把握することは困難である。病院全体のシステムとして投与情報を共有する体制を構築することが重要と考える。

当院では、新たに薬剤部と協力し投与情報を収集する取り組みを行った。薬剤部と輸血・細胞治療センターでワーキングチームを立ち上げ、薬剤部による薬剤の投薬情報の入手、および輸血部門への円滑な情報提供を目的として以下の 3 つの対策をとることとした。①当該薬剤を処方した医師に対して、輸血部門への連絡を促すアラートを電子カルテに表示する、②当該薬剤処方時または他院での投薬情報を薬剤部が入手した場合に輸血部門へ連絡をする、③輸血部門検査技師は投与情報を記載した情報カードを作成し、患者に説明して渡す。

薬剤部と輸血部門が連携した情報共有の体制を構築することにより、投与情報の収集がより確実なものとなった。加えて、輸血検査技師が投薬情報を記載した情報カードを作成し、患者に説明して手渡すことで、他院への情報提供の体制も構築できた。従来から医師が当該薬剤を処方する際に、輸血部門へ連絡を入れるよう協力を依頼していたが、連絡が来ない症例があり、検査の反応から投薬に気づく症例もあった。薬剤部は院内の投薬情報を全て把握し、当該薬剤の投薬情報に関しても鋭敏に認識できる部署である。今後、血液内科領域以外でも同様に輸血検査に影響する薬剤の登場が想定され、輸血部門と薬剤部が連携することにより院内での情報共有が円滑になることが期待できる。

施設紹介

輸血部門技師の移植・細胞治療関連業務紹介

兵庫医科大学病院 輸血・細胞治療センター

池本 純子

兵庫医科大学病院 輸血・細胞治療センターでは、アフエレーシス・細胞調製・品質確認検査・細胞保管・細胞出庫・製品受領ならびに保管・細胞や製品投与にいたる各工程について、輸血部門の臨床検査技師が一元管理を行なっている。

2022年4月～9月の半年間における移植・細胞治療業務量は、細胞採取（アフエレーシスのみ）26件（ブレヤンジ[®]6件、アベクマ[®]6件、同種末梢血幹細胞12件、顆粒球2件）、細胞採取および凍結12件（自家末梢血幹細胞9件、キムリア[®]3件）、骨髄移植0件（バンク採取2件）、臍帯血移植7件、細胞解凍・投与21件（キムリア[®]4件、ブレヤンジ[®]3件、アベクマ[®]4件、自家末梢血幹細胞10件）、テムセル[®]6件（投与56回）、コラテジェン[®]2件（4回）であった。

キムリア[®]導入を契機に、作業環境（採血室/検査室/細胞調製室/細胞保管室）の整備や、文書管理体制ならびに移植・細胞治療業務全体をカバーする新たな品質管理体制を構築した。既存の体制を最大限活用し、現場に即した効率的な運用を目指す事で、スタッフの負担を最小限に抑えつつ、細胞治療支援の拡充が可能となった。

当院の業務紹介がご施設の体制作りの一案として参考になれば幸いです。

全国大学病院輸血技師研究会 役員名簿

(2021-2022年度)

役職	氏名	所属
代表	大友直樹	東京医科歯科大学
副代表	上村知恵	慶應義塾大学
副代表	岸野光司	自治医科大学
庶務	福吉葉子	熊本大学
会計	名倉豊	東京大学
渉外	池本純子	兵庫医科大学
渉外	名倉豊	東京大学
アンケート担当	松浦秀哲	藤田医科大学
私立大学担当	鳥海綾子	慶應義塾大学
私立大学担当	池本純子	兵庫医科大学
<ブロック代表>		
北海道東北ブロック	村井良精	札幌医科大学
北関東信越ブロック	小嶋俊介	信州大学
南関東山梨ブロック	杉本達哉	東海大学
東京ブロック	嘉成孝志	東京医科大学
東海北陸ブロック	海老田ゆみえ	福井大学
近畿ブロック	万木紀美子	京都大学
中国四国ブロック	土居靖和	愛媛大学
九州ブロック	福吉葉子	熊本大学
2022年度当番校	尾上和夫	東大医科学研究所
(相談役)	山田尚友	佐賀大学

2021. 10. 07

全国大学病院輸血技師研究会 役員名簿

(2022-2023年度)

役 職	氏 名	所 属
代表	大 友 直 樹	東京医科歯科大学
副代表	川 畑 絹 代	福島県立医科大学
副代表	岸 野 光 司	自治医科大学
庶務	福 吉 葉 子	熊本大学
会計	名 倉 豊	東京大学
渉外	池 本 純 子	兵庫医科大学
渉外	名 倉 豊	東京大学
アンケート担当	松 浦 秀 哲	藤田医科大学
私立大学担当	嘉 成 孝 志	東京医科大学
<ブロック代表>		
北海道東北ブロック	村 井 良 精	札幌医科大学
北関東信越ブロック	小 嶋 俊 介	信州大学
南関東山梨ブロック	杉 本 達 哉	東海大学
東京ブロック	鳥 海 綾 子	慶應義塾大学
東海北陸ブロック	海老田ゆみえ	福井大学
近畿ブロック	万木 紀美子	京都大学
中国四国ブロック	土 居 靖 和	愛媛大学
九州ブロック	福 吉 葉 子	熊本大学
2023年度当番校	山田 麻理江	佐賀大学
(相談役)	山 田 尚 友	佐賀大学
(相談役)	友 田 豊	旭川医科大学

2022. 10. 27

全国大学病院輸血技師研究会 ブロック別施設一覧

2022年10月27日 現在

<p>北海道・東北ブロック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 北海道大学病院 2 旭川医科大学病院 3 弘前大学医学部附属病院 4 東北大学病院 5 秋田大学医学部附属病院 6 山形大学医学部附属病院 7 札幌医科大学附属病院 8 福島県立医科大学附属病院 9 岩手医科大学附属病院 10 東北医科薬科大学病院 11 福島県立医科大学会津医療センター 	<p>北関東信越ブロック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 筑波大学附属病院 2 群馬大学医学部附属病院 3 新潟大学医歯学総合病院 4 信州大学医学部附属病院 5 防衛医科大学校病院 6 自治医科大学附属病院 7 自治医科大学附属さいたま医療センター 8 獨協医科大学病院 9 埼玉医科大学病院 10 埼玉医科大学総合医療センター 11 埼玉医科大学国際医療センター 12 東京医科大学茨城医療センター 13 獨協医科大学埼玉医療センター 	<p>南関東山梨ブロック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 千葉大学医学部附属病院 2 山梨大学医学部附属病院 3 横浜市立大学附属病院 4 北里大学病院 5 昭和大学藤が丘病院 6 帝京大学ちば総合医療センター 7 東海大学医学部附属病院 8 東京女子医科大学八千代医療センター 9 聖マリアンナ医科大学病院 10 横浜市立大学附属市民総合医療センター 11 東京慈恵会医科大学附属柏病院 12 東邦大学医療センター佐倉病院 13 順天堂大学医学部附属浦安病院 14 昭和大学横浜市北部病院 15 帝京大学医学部附属溝口病院
<p>東京ブロック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 東京大学医学部附属病院 2 東京大学医科学研究所附属病院 3 東京医科歯科大学病院 4 杏林大学医学部附属病院 5 慶應義塾大学病院 6 順天堂大学医学部附属順天堂医院 7 昭和大学病院 8 京大学医学部附属病院 9 東京医科大学病院 10 東京医科大学八王子医療センター 11 東京慈恵会医科大学附属病院 12 東京女子医科大学病院 13 東邦大学医療センター大森病院 14 東邦大学医療センター大橋病院 15 日本医科大学付属病院 16 日本大学医学部附属板橋病院 17 順天堂大学医学部附属練馬病院 18 東海大学医学部附属八王子病院 	<p>東海・北陸ブロック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 金沢大学附属病院 2 岐阜大学医学部附属病院 3 名古屋大学医学部附属病院 4 三重大学医学部附属病院 5 浜松医科大学医学部附属病院 6 富山大学附属病院 7 福井大学医学部附属病院 8 名古屋市立大学病院 9 金沢医科大学病院 10 愛知医科大学病院 11 藤田医科大学病院 12 順天堂大学医学部附属静岡病院 	<p>近畿ブロック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 京都大学医学部附属病院 2 大阪大学医学部附属病院 3 神戸大学医学部附属病院 4 滋賀医科大学医学部附属病院 5 京都府立医科大学附属病院 6 大阪市立大学医学部附属病院 7 奈良県立医科大学附属病院 8 和歌山県立医科大学附属病院 9 大阪医科薬科大学病院 10 関西医科大学附属病院 11 関西医科大学総合医療センター 12 近畿大学病院 13 兵庫医科大学病院
<p>中国四国ブロック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鳥取大学医学部附属病院 2 岡山大学病院 3 広島大学病院 4 山口大学医学部附属病院 5 徳島大学病院 6 愛媛大学医学部附属病院 7 島根大学医学部附属病院 8 高知大学医学部附属病院 9 香川大学医学部附属病院 10 川崎医科大学附属病院 	<p>九州ブロック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 九州大学病院 2 長崎大学病院 3 熊本大学病院 4 鹿児島大学病院 5 琉球大学病院 6 宮崎大学医学部附属病院 7 佐賀大学医学部附属病院 8 大分大学医学部附属病院 9 久留米大学病院 10 福岡大学病院 11 産業医科大学病院 	

太字下線：ブロック代表の在籍施設

2022年度 全国大学病院輸血技師研究会 出席者名簿

施設名	出席者 (太字：現地参加者) (医：医師・(看：看護師			
北海道大学病院	渡邊 千秋			
旭川医科大学病院	佐渡 正敏	友田 豊		
弘前大学医学部附属病院	金子 なつき			
東北大学病院	成田 香魚子	関 修		
秋田大学医学部附属病院	佐藤 郁恵	奈良 美保(医		
山形大学医学部附属病院	奈良崎 正俊	石山 裕子		
筑波大学附属病院	新井 裕介			
群馬大学医学部附属病院	丸橋 隆行			
千葉大学医学部附属病院	長谷川 浩子	堺田 恵美子(医	三村 尚也(医	猪越 ひろむ(看
東京大学医学部附属病院	名倉 豊	小堀 恵理		
東京大学医科学研究所附属病院	尾上 和夫	高橋 敦子		
東京医科歯科大学病院	相川 佳子	大友 直樹		
新潟大学医歯学総合病院	上村 正巳			
金沢大学附属病院	佐藤 英洋			
山梨大学医学部附属病院	中嶋 ゆう子			
信州大学医学部附属病院	小嶋 俊介			
岐阜大学医学部附属病院	浅野 栄太			
名古屋大学医学部附属病院	渡邊 友美	加藤 千秋		
三重大学医学部附属病院	田中 由美			
京都大学医学部附属病院	万木 紀美子	濱野 京子		
大阪大学医学部附属病院	清川 知子			
神戸大学医学部附属病院	早川 郁代			
鳥取大学医学部附属病院	畑山 祐輝	福田 哲也(医		
岡山大学病院	池田 亮	浅野 尚美		
広島大学病院	野間 慎尋			
山口大学医学部附属病院	渡邊 理香			
徳島大学病院	李 悦子	瀧本 朋美		
愛媛大学医学部附属病院	土居 靖和			
九州大学病院	藤野 恵子			
長崎大学病院	古賀 嘉人			
熊本大学病院	福吉 葉子			
鹿児島大学病院	宮元 珠華	濱田 平一郎(医		
琉球大学病院	又吉 拓			
浜松医科大学医学部附属病院	石塚 恵子	芝田 大樹	山田 千亜希	
滋賀医科大学医学部附属病院	内林 佐知子			
宮崎大学医学部附属病院	坂元 あい子			
富山大学附属病院	富山 隆介			
島根大学医学部附属病院	兒玉 るみ			
高知大学医学部附属病院	西 満子			
佐賀大学医学部附属病院	山田 麻里江	山田 尚友		
大分大学医学部附属病院	古賀 紳也	赤坂 理恵子		
福井大学医学部附属病院	海老田 ゆみえ			
香川大学医学部附属病院	田中 幸栄			
防衛医科大学校病院	川内 沙織	木村 文彦(医		
札幌医科大学附属病院	村井 良精			
福島県立医科大学附属病院	川畑 絹代	高橋 沙樹	高野 希美	
横浜市立大学附属病院	原田 佐保	菅谷 文乃		
名古屋市立大学病院	南里 隆憲			
京都府立医科大学附属病院	笹田 裕司			
大阪公立大学医学部附属病院	藤野 恵三			
奈良県立医科大学附属病院	長谷川 真弓	大前 和人		

施設名	出席者 (太字：現地参加者) (医：医師・(看：看護師)			
和歌山県立医科大学附属病院	堀端 容子			
岩手医科大学	高館 潤子			
自治医科大学附属病院	岸野 光司	大槻 郁子		
自治医科大学附属さいたま医療センター	武関 雄二	清水 咲子		
獨協医科大学病院	篠原 茂	山川 朋世		
埼玉医科大学病院	山田 攻			
埼玉医科大学総合医療センター	野呂 光恵			
埼玉医科大学国際医療センター	棚澤 敬志			
北里大学病院	田部 裕二	有馬 和奈		
杏林大学医学部付属病院	牧野 博			
慶應義塾大学病院	鳥海 綾子	五十嵐 靖浩		
順天堂大学医学部附属順天堂医院	降田 喜昭	中村 裕樹		
昭和大学病院	中村 揚介			
昭和大学藤が丘病院	小山 彩子	石川 樹		
帝京大学医学部附属病院	藤原 孝記	永友 ひとみ		
帝京大学ちば総合医療センター	山本 喜則			
東海大学医学部付属病院	杉本 達哉	田代 優也	豊崎 誠子(医	
東京医科大学病院	市川 喜美子	長岡 香奈		
東京医科大学八王子医療センター	関戸 啓子	嘉成 孝志		
東京慈恵会医科大学附属病院	石橋 美由紀			
東京女子医科大学病院	千野 峰子			
東京女子医科大学八千代医療センター	杉野 智広			
東邦大学医療センター大森病院	遊佐 貴司			
東邦大学医療センター大橋病院	高橋 茂勝			
東京医科大学茨城医療センター	下野 真義			
日本医科大学付属病院	日ノ澤 進一郎			
聖マリアンナ医科大学病院	鈴木 昌行	佐藤 恵利子		
金沢医科大学病院	山口 大介			
愛知医科大学病院	片井 明子			
藤田医科大学病院	松浦 秀哲	杉浦 縁		
大阪医科薬科大学病院	渡邊 由香理	志磨 美緒		
関西医科大学附属病院	山岡 学			
関西医科大学総合医療センター	市邊 明美			
近畿大学病院	藤田 往子	前田 岳宏	川原 実緒	
兵庫医科大学病院	池本 純子	小野本 仁美		
川崎医科大学附属病院	仲井 富久江			
久留米大学病院	藤好 麻衣			
福岡大学病院	嶋田 裕史			
産業医科大学病院	坂西 陽子			
日本大学医学部附属板橋病院	川平 宏	並木 浩信		
順天堂医学部附属練馬病院	市川 佳世子			
順天堂大学医学部附属静岡病院	猪口 明実			
横浜国立大学附属市民総合医療センター	深川 良子			
東京慈恵会医科大学附属柏病院	長谷川 智子	市井 直美		
東邦大学医療センター佐倉病院	蓮沼 秀和			
順天堂大学医学部附属浦安病院	大澤 俊也			
東北医科薬科大学病院	齊藤 梨絵			
昭和大学横浜市北部病院	佐々木 かよ子	下山 瑞貴		
福島県立医科大学会津医療センター	渡部 和也			
東海大学医学部付属八王子病院	倉島 志保	小山 暁史	植村 茉耶	
帝京大学医学部附属溝口病院	福成 秀美	鈴木 佑理		
獨協医科大学埼玉医療センター	鳥山 満			

平成13年（2001年度）以降 当番校リスト

回	開催年度	開催日	担当校
11	平成13年度	2001年9月28日	秋田大学
12	平成14年度	2002年11月22日	筑波大学
13	平成15年度	2003年11月21日	高知大学
14	平成16年度	2004年10月18日	琉球大学
15	平成17年度	2005年10月20日	福井大学
16	平成18年度	2006年10月2日	北海道大学、旭川大学
17	平成19年度	2007年10月4日	香川大学
18	平成20年度	2008年10月2日	大阪大学
19	平成21年度	2009年11月14日	浜松医科大学
20	平成22年度	2010年9月21日	熊本大学
21	平成23年度	2011年10月20日	自治医科大学
22	平成24年度	2012年11月15日	川崎医科大学
23	平成25年度	2013年10月20日	北海道大学
24	平成26年度	2014年10月17日	広島大学
25	平成27年度	2015年10月22日	信州大学
26	平成28年度	2016年10月6日	富山大学
27	平成29年度	2017年10月11日	大分大学
28	平成30年度	2018年10月18日	弘前大学
29	2019年度	2019年11月14日	東京女子医科大学
30	2020年度	2020年10月22日	三重大学
31	2021年度	2021年10月7日	名古屋大学
32	2022年度	2022年10月27日	東京大学医科学研究所

MEMO